

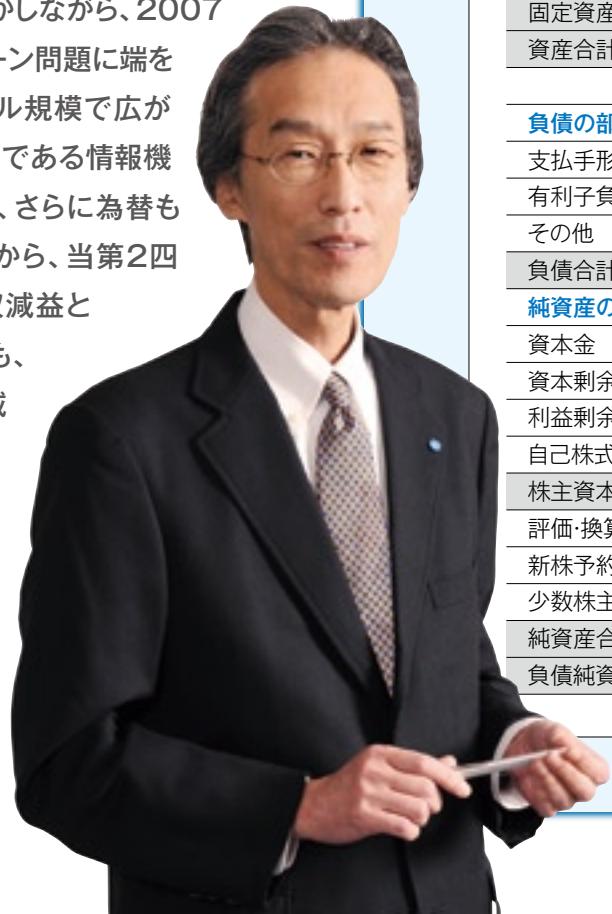
03

2009年3月期第2四半期
経理部長の
財務レポート

「財務体质の強化に 取り組んでいます」

概況

2006年5月に発表した中期経営計画『FORWARD 08』が最終年度(2009年3月期)を迎えており、目標の達成に向け、引き続き「ジャンルトップ戦略」を積極的に推進しました。しかしながら、2007年夏以降のサブプライムローン問題に端を発した金融不安がグローバル規模で広がり、当社グループの中核事業である情報機器事業が大きな影響を受け、さらに為替も大幅な円高に変動したことから、当第2四半期累計期間の業績は增收減益となりました。このような中でも、有利子負債は引き続き削減に努め、前期末比207億円減少の2,053億円となり、自己資本比率は前期末より2.9ポイントアップし、45.9%に達しました。



コニカミノルタホールディングス株式会社
執行役経理部長
安藤 吉昭 (あんどう よしあき)

■連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円、未満切捨)

	当第2四半期末 2008年9月30日	前期末 2008年3月31日
資産の部		
現金及び預金	88,278	89,218
受取手形及び売掛金	226,132	234,862
たな卸資産	136,225	132,936
その他	98,292	100,093
流動資産合計	548,930	557,110
有形固定資産	239,788	245,989
無形固定資産	113,046	93,848
投資その他の資産	72,090	73,589
固定資産合計	424,925	413,427
資産合計	973,855	970,538
負債の部		
支払手形及び買掛金	110,009	109,413
有利子負債	205,324	226,025
その他	210,721	216,788
負債合計	526,060	552,227
純資産の部		
資本金	37,519	37,519
資本剰余金	204,140	204,140
利益剰余金	207,290	176,684
自己株式	△ 1,718	△ 1,340
株主資本合計	447,231	417,003
評価・換算差額等合計	△ 515	162
新株予約権	367	286
少数株主持分	710	858
純資産合計	447,794	418,310
負債純資産合計	973,855	970,538

貸借対照表

当第2四半期末(2008年9月30日現在)の総資産は、前期末(2008年3月31日)比33億円増加し、9,738億円となりました。流動資産は、前期末比81億円減少の5,489億円となりました。これは主に、設備投資の増加や情報機器事業における米国のダンカ・オフィス・イメージング社の買収などの資金需要に加え、有利子負債の返済を進めた結果、現金及び預金と、その同等物の有価証券が減少したことによるものです。固定資産は、前期末比114億円増加の4,249億円となりました。これは主に、有形固定資産におけるオプト事業を中心とした設備投資の増加と、貸与資産の減少、および無形固定資産における情報機器事業でのダンカ・オフィス・イメージング社の買収によるものです。

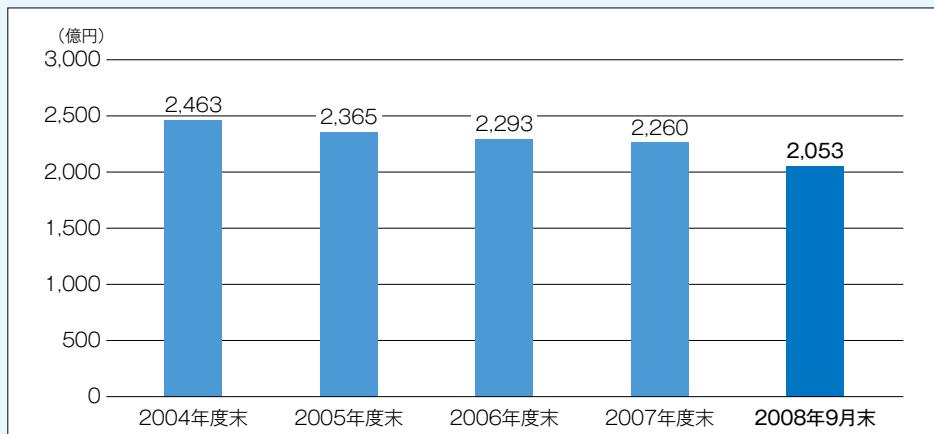
一方、当第2四半期末の負債は、前期末比261億円減少し、5,260億円となりました。この減少は主に、引き続き有利子負債を削減した結果で、当第2四半期末の有利子負債は、前期末比207億円減少し、2,053億円となりました。

当第2四半期末の純資産は、四半期純利益292億円の計上などにより利益剰余金が増加し、4,477億円となりました。自己資本比率も前期末比2.9ポイント改善し45.9%となり、さらに財務体質の強化が進みました。1株当たり純資産額も前期末比56.07円増の842.27円となりました。

損益計算書

当第2四半期累計期間(2008年4月1日～9月30日)の連結売上高は前年同期比80億円(1.5%)増収の5,329億円となりました。この増収は、2008年6月に買収した

■有利子負債残高



■連結損益計算書(要約)

当第2四半期 2008年4月1日～2008年9月30日		前第2四半期 2007年4月1日～2007年9月30日
売上高	532,971	524,958
売上原価	289,743	265,275
売上総利益	243,227	259,682
販売費及び一般管理費	194,557	202,623
営業利益	48,670	57,059
営業外収益	5,717	5,710
営業外費用	6,510	8,098
経常利益	47,877	54,670
特別利益	6,820	1,352
特別損失	4,842	2,169
税金等調整前四半期純利益	49,856	53,853
法人税等	20,572	16,127
少数株主利益	3	81
四半期純利益	29,279	37,644

ダンカ・オフィス・イメージング社を連結対象会社に加えたことで情報機器事業が前年同期間並みの売上高を確保したこと、VA-TACフィルムやBD用光ピックアップレンズなど成長製品をもつオプト事業が当社グループの売上拡大を牽引したことによります。

売上原価は、全社的なコストダウンの取り組みを強化しているものの、販売価格の下落や原材料価格の高騰などの影響を吸収するには至らず、加えて当期よりグループの会計方針の整備に伴い、従来販売費及び一般管理費、および営業外費用に計上していた費用の一部について、売上原価に計上変更したこと、さらに税制改正による影響もあり、前年同期より244億円増加しました。一方、販売費及び一般管理費は、研究開発費が35億円増加したものの会計処理の変更の影響もあり、前年同期比で80億円減少の1,945億円となりました。この結果、営業利益は、前年同期比83億円(14.7%)減益の486億円となり、営業利益率は前年同期の10.9%から1.8ポイント低下し9.1%となりました。

営業外損益は、上述の会計処理の変更もあり前年同期比で好転ましたが、経常利益は、前年同期比67億円(12.4%)減益の478億円となりました。

特別損益は、前年同期比で好転ましたが、四半期純利益は、前年同期比83億円(22.2%)減益の292億円となりました。なお、1株当たり四半期純利益も、前年同期比15.74円減少し、55.19円となりました。

■連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円、未満切捨)

当第2四半期 2008年4月1日～2008年9月30日	
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	63,986
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 53,182
I+II フリー・キャッシュ・フロー	10,803
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 25,526
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 2,729
V 現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△ 17,451
VI 現金及び現金同等物の期首残高	122,187
VII 連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	498
VIII 現金及び現金同等物の四半期末残高	105,234

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払いがありましたが、税金等調整前四半期純利益498億円と減価償却費339億円などにより、639億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、531億円の支出となりました。これは、ジャンルトップ戦略に沿った成長分野への投資によるものが中心で、具体的には情報機器事業におけるダンカ・オフィス・イメージング社の買収と、オプト事業の生産力増強にかかる投資です。この結果、フリー・キャッシュ・フローは108億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、255億円の支出となりました。これは主として、財務体質強化のための有利子負債の返済と配当金の支払いによるものです。

以上の結果、円高による影響で為替換算差額27億円を減算、および新規の連結会社による増加分4億円を加算した当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は1,052億円となりました。世界的な規模での景気後退、市場環境も急激に変化する中、今後も財務の安定性を向上させるとともに、さらなる成長に向け財務体質の強化に取り組んでいきます。